

X線分析顕微鏡 XGT - 2700

マニュアル

～電源 ON からサンプルをセットするまで～

1. 使用する一時間前に液体窒素を補充する。液体窒素が入っていないと検出器が働かないので注意。
2. 試料台に試料が乗っていないことを確認した後、電源ユニットの電源スイッチを ON にする。
3. パソコンの電源スイッチを ON にする。
数分後、画面にパスワード入力が出てくるので、「 k o j i 」と入力
4. 本体の LN ランプが緑色であることを確認。もし、赤いランプであれば、数時間放置後（2時間以上）オレンジ色（室温状態）に変化した状態で液体窒素を入れなおす。
5. 「原点サーチを行います」のメッセージが出たら、試料が乗っていないことを確認して「実行」を選択
6. 真空を引く。この操作はデリケートであるので慎重に優しく行う。
 - ・まず、真空リークスイッチ（右側の小さいレバー）を手前に倒れていることを確認し、下に引いたまま、奥へ押し込み手を離す（これでポンプと検出器がつながる）。デリケートな部分なので優しく行う。
 - ・VAC スイッチを優しく押す。数秒後、赤色（常圧）から緑色（真空）に変われば OK。

！注意！

必ず、真空リークスイッチ ON、VAC を ON の順番。逆にやると検出器の膜が破れるので注意。

VAC が緑色にならない場合・・・

可能性：真空リークスイッチが閉じたままの状態 操作 6. を行う。

可能性：検出器の膜が破れている可能性 膜を取り換える必要があるため、中井研の装置担当の人に連絡。

7. コントローラを操作して、試料台を手前に出す。試料台を取り出した後、サンプルを測定したい面を試料台中央に乗せて、ひつつき虫やテープで固定する。
8. 試料台を再びセットして、装置に戻す。

～測定～

1. 測定条件の設定（詳しくは本マニュアル P2-4 以降を参照）を行う。
詳しくは中井研の装置担当者まで。
2. 周期表マークの定性画面で見たい元素を選択する（最大 15 元素）。
3. 初期走査条件画面を確認後、測定開始を押せばマッピングが開始される。

～終了の仕方～

1. データを所定のフォルダに保存する。
2. MO を挿入し、データを保存後取り出す。
3. 試料台を取り出し、サンプルを外した後、台を元に戻す。
4. スペクトルウィンドウのタイトルバー右端の×ボタンをクリック。
5. 「確認」ダイアルボックスで終了します。よろしいですか？と聞かれるので「OK」を選択。
6. スタートボタンで Windows を終了させる。
7. 真空を止める。まず、VAC ボタンを優しく押してポンプを止める。（止めても緑色のままであるが、赤くなったときは膜が破れる前兆の可能性）
8. 真空リークスイッチを下に引いて、手前に戻す。デリケートなので気をつけてやる。
9. 電源ユニットを OFF にする。
10. 使用記録をつける。